

## 春から夏への大学美術館 2002.4&gt;&gt;&gt;2002.6

# 洋画の青春群像

油画の卒業制作と自画像  
自己を探索する重要なメディア

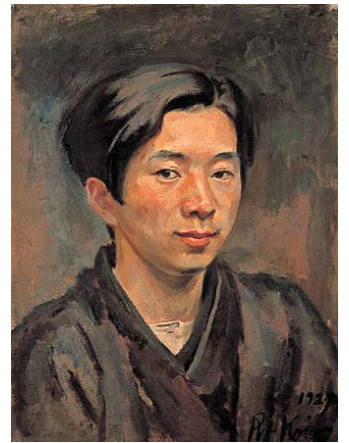
野口玲一



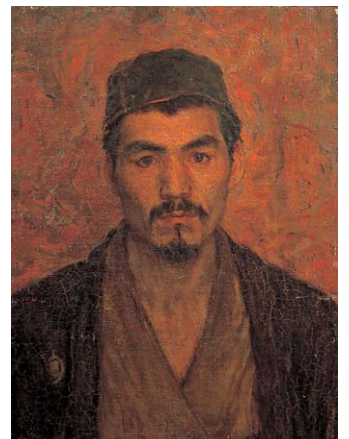
岡鹿之助「自画像」



大沢昌助「姉妹」



小磯良平「自画像」



熊谷守一「自画像」

絵画科はもちろん、彫刻科、今では工芸科も、卒業制作の課題に自画像を加えています。卒業（卒業制作・修了制作展）に出品された卒業制作の傍らに掲げられた自画像は、作家の人となりを知るよすがとなり、作品に対する親近感を深めてくれるでしょう。

とはいっても、定番となつて今日とくに不思議とは思われない「卒業制作プラス自画像」という出品形式は、どのようにして成立したのでしょうか。卒業にあたり、卒業に相当する卒業制作を行うことに特に不思議はありません。ところが自画像については、どのような経緯で卒業制作の課題に付け加えられたのか、実はよくわかっていないのです。

東京美術学校西洋画科では、一八九六年（明治二十九）開設当初から、カリキュラムの四年次に卒業制作があてられていました。卒業制作の収蔵は、今日に至るまで続けられています。これは一八八九年（明治二十二）の東京美術学校の開設とともにおかれた、絵画科（日本画科）に做つたのでしょう。ただし特筆すべきは、西洋画科においては卒業制作にあわせて、自画像の制作も課されるようになったことです。

東京芸術大学には、一八九九年（明治三十二）の西洋画科最初の卒業生からの自画像が残されています。はじめは学生の一部

だけでしたが、一九三三年（明治三十六）からは、西洋画科すべての学生の自画像が残されるようになりました。その後西洋画科は油画科・油画専攻となりましたが、戦争による一九四三、四九年（昭和十八、二十四）、予算難による一九五五、七七年（昭和三十、五十二）という二回の中断の時期をのぞいて、自画像の収集は今日まで連続と続き、東京芸術大学の収蔵作品の大きな核となっています。

これらの卒業制作・自画像は、作家の若い時期の姿を偲ぶばかりでなく、作家のある年齢における技法を分析する際の基準事例となり、研究上も重要な意味を持っています。とりわけ自画像については、はじめはおそらく単なる記録・記念として始められたものが、明治末年から大正期にかけて、画家にとって自己を探索する上での重要なメディアへと変貌することになります。自画像が画家にとって真摯に取り組むべきジャンルとなったのです。それによってこれらの自画像群は、日本近代の美術史を考える上で重要な資料となっています。

本展では、とくに西洋画科開設当初から一九五四年（昭和二十九）までの油画の卒業制作・自画像に焦点をしぼり、それらを検証することで、この時代の美術と作家の姿を浮かび上がらせることを試みます。

（のぐち・れいいち／大学美術館助手）

# アフガニスタン1000年の歴史(仮称)

## アフガニスタン文化財復興支援

「文明の十字路」から生まれた至宝を、再発見する

竹内順一

大学美術館では、来る七月十六日(火)から九月十六日(日)の五十五日間にわたって(毎月曜日休館)にわたって、「アフガニスタン」年の歴史(仮称)

アフガニスタン文化財復興支援」という特別展をNHK・朝日新聞社共催で開催します。この展覧会は、現在、フランス国立ギメ東洋美術館(パリ)で三月一日から五月七日まで行われており、それを日本で公開するものです。

本特別展は、紀元前のバクトリアの塑像から三・四世紀のハッタの石像、さらには八世紀のパーミヤン陶器などアフガニスタンの地で育まれた美術工芸を約二点でとどめるものです。

アフガニスタンは「文明の十字路」といわれ、古代から文化の東西交流の要地でした。ところが周知のとおり、一九八九年のソ連撤退後の内戦やタリバンの強固な偶像崇拜禁止策のために、アフガニスタンの文化財の多くが破壊されてしまいました。著

名なパーミヤンの巨大石仏遺跡が世界の世論を無視して、昨年三月砲弾によって崩壊されたことは人々の記憶に新しいところ

です。この展覧会は、すでにスペインのバルセロナで開催されヨーロッパの注目を集めました。出品作品は、ギメ東洋美術館をはじめ人類博物館、ドイツのインド美術館、アメリカのサックラー美術館、あるいはフランスの個人コレクションなど欧米有数の東洋コレクションが一同に会するものです。またアフガニスタンの国立カブル博物館の所蔵品で一時ギメ東洋美術館に保管されているものも含まれています。

平山都夫学長は、かねてから内乱で流出した文化財を「文化財難民」とし、自らの手で保護し、ユネスコ親善大使の立場から国際世論に、「アフガニスタンの文化財を保護することは、アフガニスタンの人々の人間性をとりもたすことになる」と訴えてきました。この緊急避難された「文化財

難民」も三十余点特別に出品されます。将来、カブル博物館が再建され、安全が確保されたあかつきには、無償返還することになっていきます。本展によって、シルクロードの一翼をにぎった文化交流の地、アフガニスタンの多

## 芸大コレクション展

四万五千点にのぼる収蔵品の中から展示する

小野寺玲子

大学美術館は、東京美術学校設置以来収集されてきた美術作品を所蔵しており、その数は約四万五千点にのぼります。すべての作品がいつでも観覧できるといわけにはいきませんが、その中から一部を常設展示し、学生だけでなく一般の方々にも良質な作品の持つ味わいを楽しんでいただきたいと思っています。

一度に展示できる数は五十点ほどですが、作品保護のため、日本画や水彩画、素描などはおよそ一ヶ月毎に展示替えをします。出品の内容については、ホームページが館内および守衛所に置いてありますチラシ、またはハローダイヤルをご利用ください。(おのであら・れいこ/大学美術館助手)



狩野芳崖「悲母観音」

## 展覧会予定

(2002.4 ~ 2003.3)

### 大学美術館本館

芸大コレクション展(展示替えあり)  
4月9日(火)~8月4日(日) 入場料300円  
「悲母観音」特別展観 4月9日(火)~5月12日(日)/菱田春草・横山大観ほか 5月14日(火)~6月23日(日)/「靴屋の親爺」とその周辺 6月25日(火)~8月4日(日)

洋画の青春群像 油画的卒業制作と自画像  
4月26日(金)~6月30日(日) 入場料700円

(仮)アフガニスタン1000年の歴史展  
アフガニスタン文化財復興支援  
7月16日(火)~9月16日(日) 有料

特別陳列「竹内久一と石川光明」  
明治の彫刻展  
8月13日(火)~9月16日(日) 入場料300円

開館3周年記念  
「ウィーン美術史美術館展  
~ルネサンスからバロック~」  
10月5日(土)~12月23日(月) 入場料1300円

退官記念展(2教員)  
1月9日(木)~1月26日(日) 入場無料

第51回卒業・修了制作展  
2月21日(金)~2月26日(水) 入場無料

### 陳列館

(仮)大学院美術研究科博士後期課程  
研究発表展  
4月3日(水)~5月26日(日)  
12月~2月の間 入場無料

(仮)吾妻兼次郎デッサン展  
7月上旬 入場無料

建築科椅子展  
9月中 入場無料

(仮)研究室展(油画)  
10月上旬~10月下旬 入場無料

伊藤廣利遺作展  
11月7日(火)~11月24日(日) 入場無料

### 取手館

美術学部取手校地制作展  
12月7日(土)・8日(日) 入場無料

開館時間は、いずれも10時~17時。月曜日休館。ただし月曜日が祝日の場合、開館することがあります。展覧会の名称・会期については、変更することがあります。本学には駐車場はありませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。展覧会についてのお問い合わせ 東京芸術大学大学美術館 Tel.03-5685-7755 NTTハローダイヤル Tel.03-5777-8600 展覧会の紹介は、下記ウェブサイトでごらんになれます。 <http://www.geidai.ac.jp/museum/>